

岐阜市における地域公共交通活性化・再生総合事業(重点プロジェクト)

岐阜市地域公共交通総合連携計画

少子高齢化や環境問題、また、中心市街地の活性化等まちづくりと一体となった将来都市構造を誘導する交通体系をめざし、幹線・支線・コミュニティバスが連携したバスネットワークの確立を図る。岐阜駅から10キロ圏を30分到達圏域とする目標達成に向け、幹線バスの定時制・速達性をあわせた輸送力の向上、幹線バスと支線バスの乗り継ぎ円滑化や交通空白地域での実証運行等を実施する。

20年度総合事業計画の概要

1) 8幹線・市街地循環線を核とするバス路線再編(岐阜大学病院をトランジットセンターとする)

- ・幹線・支線によるバス路線を構築するため、円滑な乗り継ぎ拠点を設置し、幹線と支線に路線再編を行う。
- ・8幹線の一つである岐阜大学病院路線の輸送力増強を行うため、高頻度かつ定時で運行するサービスを提供。そのため、岐阜大学病院をトランジットセンターとし、輸送力の増強を行うため、増便の実証実験を行うとともに、急行バスを導入する。

2) バス路線の情報提供(バスロケーションシステム)

- ・現在の案内情報に加えて発車順の時刻表示や外国語案内にも対応したシステムを導入し、バスの運行状況を利用者に情報提供し、バスの利便性の向上を図る。(岐阜大学病院・岐阜大学などに設置。)

3) コミュニティバスの充実(実証運行・ICカード車載器整備)

- ・路線バスと一体となった公共交通ネットワークの確立等を図るため新たに4地区でのコミュニティバスの実証運行を行うとともにICカード車載器の導入を図る。

4) 環境対策・バリアフリーの推進(ノンステップバス(2台)・ワンステップバス(16台)・低公害バスの導入(2台))

5) わかりやすいバス案内

- ・JR岐阜駅にバス総合案内板を設置し、目的地への案内を行ない、利用者の利便を図る。
- ・路線図、系統情報、主要バス停の案内をまとめたバスマップを作成し、バスの利用促進を図る。

トランジットセンター設置(岐阜大学病院)による幹線支線への再編図

